

西区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
自然資源を活かした賑わい事業(西区自然観察会 in 共生の森)		西区自治連合協議会「にぎわい・文化のまちづくり」部、堺市西区			
事業目的	事業内容	活動指標	R03		
「水や緑の自然資源を有効に活かす」取り組みとして、西区に生息する生物に直接触れ、取り巻く環境や生態系に対する理解を深めるため、観察会を開催する。事業を通じて、自然環境を活かした「にぎわい・文化のまちづくり」を進めていく。	大阪府立大学 生命環境科学研究科の平井規央教授を講師として招き、堺7-3区共生の森の自然環境や生息する生物を題材に自然観察会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。YouTube上での動画配信に開催方法を変更し、共生の森の紹介や平井教授監修のもと現地に住む生物の解説を行った。	①観察会申込者数	14件(36人)		
		②動画視聴回数	249回		
①妥当性	②協働の視点	③インパクト		④効率性	
○	△	○	○	○	○
西区内には、大阪府の管理地である産業廃棄物の処理場を活用した共生の森が存在し、様々な生物が生息している。区内の生態系や環境について、区民が興味・関心を持つことにつながるため、妥当性が高い。	イベント当日は、市民が参加予定だったが、本事業自体は区が主体となって、準備・調整などを行っている。	堺第7-3区共生の森は普段立ち入ることのできない場所であり、その地に生息する生物や環境について、専門家の最新の知見を学べることは貴重な機会である。今回の観察では約70種類の生物が観察できた。		コロナ禍において現地での開催が難しい中、動画配信形式による開催を行ったことで、当初の申込者以外の事業参加が可能になった。また、動画作成は職員が主に行ったため、作成費用が生じることもなく、効率の良い運営ができた。	
⑤自立発展性		総合評価			
△	○	今回はコロナ禍によって現地での観察会は中止になったが、若年層の申込者が多かったことから動画配信形式で事業を実施した。動画を通して、普段は立ち入ることのできない共生の森を取り巻く環境や生息する生物について知る貴重な機会となった。今後も、西区の自然資源を活用し、にぎわい・文化のあるまちづくりを進めていきたい。			
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	今回の事業は広報紙と西区ホームページのみで、観察会の参加募集・周知を行ったが、小学生等の子をもつ親子の参加が申し込みの大半を占めるだけでなく、ご年配の方や高校生の申し込みが見られた。普段立ち入ることのできない共生の森という特別な場所での観察会ということが、幅広い世代の方の関心につながったと考える。また、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初計画していた現地での観察会を変更し、インターネット上の動画投稿サイトに動画を配信するオンライン形式での開催になった。今回の観察動画では、約70種類の生物を紹介することができ、区民に西区の生態系を知ってもらう良い機会になったので、次年度は実際に現地を訪問し、共生の森に生息する生物に直接触れ、取り巻く環境や生態系に対する理解をさらに深めたい。				